



- ☆☆育てたい「いまじゅくの子」☆☆
- い ○いきいきとした心と体をつくる子(体)
 - ま ○学びをいかそうとする子(知)
 - じ ○自分とみんなを大切にする子(徳)
 - ゆ ○ゆめをもち人の役に立とうとする子(公)
 - く ○くらしをよりよくしようとし世界に目を向ける子(開)



いろ

校長 藤巻 孝之

個人面談が始まりました。保護者の皆様と子どもたちの学びや生活の様子等について共有し、今後の指導や支援につなげていきたいと思えます。ご協力をよろしくお願いいたします。あわせて子どもたちの作品、他校の子どもたちの作品を展示しています。一人ひとりが自分らしさ、自分なりのイメージをのびのびと表現しています。色彩に富んだ素敵な作品もそろいました。個人面談でご来校の際、ぜひご覧ください。…色彩といえば…。

子どもころ、絵の具の中にあった色に違和感がありました。群青色と朱色、そしてビリジアン。群青色は濃い青のこと？朱色はオレンジと違うの？そもそもビリジアンって何？どうして子どもになじみの少ない、しかも難しい名前色が入っているのだろうと不思議に思っていました。その色の貴重さ、尊さに気が付いたのは、かなり時間がたった後でした。

晩秋の夕方、空を見上げました。西は夕焼けに染まり、東に行くにつれ深く深い青色に変わっていきます。そのグラデーションは自然が織りなす美しさでした。初めて見る風景ではなかったのですが、その時、はじめて自然の中に朱色と群青色を見つけました。

私の実家には一本の柿の木があります。樹齢は 80 年以上になる、高さは7mほどの大きな柿の木です。今年は実が 700 個以上できました。嘘のようなホントの数字です。食べるとカリッと音がする、固めの甘い柿、幼いころから食べてきた大好きな柿です。毎年恒例の柿取りを任せられるようになった年に改めて見つけた色。食べごろの実の朱色、その葉は枯れてはなくビリジアン。豊かさを感じる色です。

子どもころ、違和感があった色たちは、自然の美しさ、豊かさ、そして喜びを象徴する色でした。今小の子どもたちにも「ひと、もの、こと、との出あい」に「色」を加えながら、心にしみる学び、心に刻まれる学びをコーディネートしていきたいと思えます。

令和6年も残すところひと月です。今年も今小の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。学校と家庭と地域の和を実感することのできた一年でした。令和7年もともに子どもたちの健やかな育ちを支えていきましょう。元気が一番！